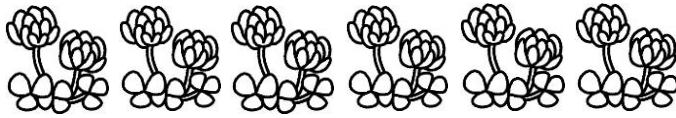


園だより

3月号



令和6年2月29日
新宿区立西戸山幼稚園
園長 佐藤 淳穂

伸びる時

園長 佐藤 淳穂

今年も園庭の池にヒキガエルが現れました。今のところ、まだ一匹だけです。寒暖の差が大きいので、カエルも出てきてよいものか戸惑っているのかもしれませんが。園の飼育ケース内で冬越しをしている虫たちも、春の足音にそわそわしているようです。先週は、蛹から一頭のアゲハチョウが誕生し、冷たい空へ飛び立っていきました。ケースの底で土の中に潜っていたヤブももぞもぞと動き出しています。

新しい春を感じているのは、虫だけではありません。

先日、年長組は西戸山小学校を訪ね、一年生の授業風景を見せていただきました。国語の教科書を開き、手を挙げて発言する小学生は、それはそれは眩しく映りました。ランドセルを背負わせてもらったり、給食当番の割烹着を着せてもらったり、道具箱の中やタブレットを見せてもらったりして、教室の机に座って、さながら一年生の気分を味わいました。

健康診断や入学前プログラムなどで度々小学校を訪問する機会もあり、一人一人の中に学校生活のイメージが見えてきているようです。就学を実感してか、子どもたちはキビキビと行動するようになって、気付くと30分も集中して話し合いに参加したという場面もありました。昨日は修了式の練習をしましたが、みんな真剣に話を聞き、自分のことだけでなく、友達が証書を受け取る姿もじっと見ていました。幼稚園の修了が現実となって、自分で自分の意識を高めているように思います。

日本教育会の講演会の中で、脳科学者で屋久島おおぞら高等学校長の茂木健一郎氏が「自己肯定感をもって行動するとドーパミンが出て脳の神経細胞が活発になる」「認められるとうれしくて、またドーパミンが出る。根拠なき自信も伸びる時。」と語っていたことを思い出しました。就学・進級を前にしたまさに今、次のステップに行ける喜びに満ちて、様々なことに向き合える気がしている子どもたちは、ぐんと伸びる時だと思います。他人と比べずに一人一人の「自分は自分でいい」を大切に、成長する自分を感じられるようにしたいと思います。



3月の誕生会では、さくら組が司会を担当します。2,3人ずつのグループになって、年長組から言葉や動き方を教えてもらいました。見るのとするのとは大違いで、緊張しながら前に立つさくら組、心配しながら見守るすみれ組。憧れが生まれ、進級する喜びとともに小さな自信がふつふつと湧いてくる瞬間に立ち会えるのは、誕生会に参加する私たちの特権です。

一年間の子どもたち一人一人の成長と変容に、胸が熱くなる毎日です。次にバトンを渡し巣立ちゆく年長組を、心を込めて見送りたいと思います。地域の皆様、保護者の皆様方の温かいご支援に感謝申し上げます。